日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（旧　名古屋第二赤十字病院）で診療を受けられる／受けられた患者さんへ

～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	生体腎移植における日本独自のドナー・レシピエント組み合わせ最適化 AI 予後予測モデルの開発			
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日　～（西暦）2031 年　3 月　31 日			
研究実施診療科	移植外科			
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2026 年　8 月　20 日		
	院長が研究実施を許可した日	2026 年　8 月　21 日		
対象となる方	（西暦）2008 年 1 月 1 日　～（西暦）2030 年 12 月 31 日に、当院移植外科において、成人生体腎移植を受けたレシピエントの方およびその生体腎ドナーの方			
研究責任者	所属	移植内分泌外科	氏名	平光　高久
研究の意義・目的	日本では献腎移植が少なく、生体腎移植が腎移植の大部分を占めています。preformed donor-specific antibody（DSA）を有する組み合わせでは移植腎予後が不良となることが知られており、将来的には kidney paired donation（KPD：複数のドナー・レシピエントペア間でドナーを交換する方法）により、より免疫学的に適した組み合わせを選択できる可能性があります。 一方、米国で用いられる KDPI は主に献腎移植のドナー評価指標であり、日本の生体腎移植や KPD にそのまま用いることは困難です。本研究では、当院の生体腎移植データを用いて、ドナー因子、レシピエント因子、免疫学的因子を統合した日本独自の長期移植腎予後予測モデルを作成し、将来的な日本型 KPD の基盤とすることを目的とします。			
研究の方法	対象となる方の診療録、手術記録、検査記録、移植関連データベースを振り返って、臨床情報を収集します。統計解析および AI・機械学習解析により、5 年および 10 年の移植腎予後を予測するモデルを作成します。また、研究用データ内で仮想的にドナーとレシピエントを組み替えるシミュレーションを行い、DSA を回避しながら移植腎予後が			

	医学的に同等と考えられる組み合わせを探索できるか検討します。なお、本研究で作成するモデルやシミュレーション結果は研究目的であり、実際の診療方針決定やドナー交換には使用しません。
研究に使用するもの	診療録等から得られる情報を、個人を直接特定できないようにした上で使用します。 具体的には、ドナーおよびレシピエントの年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴、血液検査、尿検査、画像検査、腎機能、移植時腎生検、ABO 血液型適合性、HLA、DSA、脱感作療法、手術情報、免疫抑制療法、拒絶反応、移植後腎機能、移植腎廃絶、死亡、追跡期間などの情報を使用します。
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は通常診療で得られた既存情報を用いる研究です。科学研究費助成事業等の公的研究費を申請または使用する可能性がありますが、特定企業からの資金提供は受けません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。 将来的に日本移植学会 TRACER システム等を用いた外部検証研究を行う場合には、別途必要な倫理審査および手続きを行います。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植外科　　平光　高久 電話　052-832-1121（代表）